

騒音・振動の技術支援

—2019 年度分—

加藤晶子 石橋雅之 上治純子 大橋英明

1 目的

騒音・振動の規制に関する事務は市町村が行っているが、測定機器の取扱い経験の無い職員が担当となることが少なくない。当センターでは、市町村職員の騒音振動測定技術の向上を目的として、大気保全課と協力し技術講習会を実施している。また、市町村等からの問い合わせに応じ、個別の事例に関して、測定・評価方法や機器の操作方法等の技術的助言を随時実施している。

2 騒音・振動測定技術講習会

知識や技術の内容によって、初級と中級の2コースに分けて行っている。講習会で学んだ技術を測定現場で活用できるよう、両コースとも実際に市町村で所有している機種を使用する。2019年度は、初級を5月28日から3日間、中級を6月4日から2日間の日程で行った。過去5年分の参加者数を表1に示した。

初級講習会では、初めて騒音振動業務に携わる職員を主な受講者として想定しており、騒音・振動に関する基礎的な講義の他、騒音計・振動レベル計の基本操作に関する実習を行った。

中級講習会は、初級講習会を受講済みで騒音振動業務を1年以上担当している等、ある程度経験を積んだ職員を主な受講者として想定しており、周波数分析や低周波音測定等、より高度な測定技術に関する実習を行った。

3 個別事例の技術支援

市町村は住民からの苦情の受付窓口となっており、日々対応が求められている。実際の苦情現場は机上の学習と異なり、様々な要因から測定上の制約を受ける等、複雑な環境にあることが多い。当センターでは、前項の講習会の他に、市町村から問い合わせがあった場合には、個別事例に対する技術支援を行っている。

2019年度中に市町村等へ行った技術支援は10件あり、その概要を表2に示した。相談の内容を騒音・振動・低周波音に分類すると、騒音が7件、振動が2件、低周波音が3件であった。技術支援の内容としては、機器の使用方法を含めた測定方法に関する助言や、測定結果の評価方法に関する助言がほぼ全てを占めていた。

4 まとめ

当センターでは、技術講習会のアンケートや市町村から受けた相談内容を整理し、技術支援が必要な苦情の傾向を把握するとともに、測定方法の最新の動向を捉え、技術講習会の内容に反映している。

表1 騒音・振動技術講習会の参加者数

| 年度 | | 2015 | 2016 | 2017 | 2018 | 2019 | 合計 |
|------|-------|------|------|------|------|------|-----|
| 参加者数 | 初級(人) | 24 | 33 | 34 | 33 | 31 | 155 |
| | 中級(人) | 9 | 8 | 8 | 8 | 8 | 41 |

表2 個別事例に対する技術支援の概要(2019年度)

| No. | 市町村等 | 公害の種類 | | | 発生源の種類 | 技術支援の内容 |
|-----|---------|-------|----|------|----------|----------------|
| | | 騒音 | 振動 | 低周波音 | | |
| 1 | 開催準備課 | ○ | | | スピーカー音声等 | サーフィン会場の騒音測定方法 |
| 2 | 千葉土木事務所 | | ○ | | 自動車 | 道路交通振動の測定補助 |
| 3 | 流山市 | | | ○ | 不明 | 測定方法, 発生源の特定方法 |
| 4 | 我孫子市 | ○ | | | 子供の声 | 結果の整理方法 |
| 5 | 山武市 | ○ | | | 工場 | 測定方法, 機器操作方法 |
| 6 | 君津市 | ○ | | | 工場 | 測定方法 |
| 7 | 勝浦市 | | | ○ | 不明 | 発生源の特定方法 |
| 8 | 我孫子市 | ○ | | | 不明 | 測定方法, 機器操作方法 |
| 9 | 廃棄物指導課 | ○ | ○ | | 工場 | 工場騒音・振動の測定補助 |
| 10 | いすみ市 | ○ | | ○ | 不明 | 機器操作方法 |

※同様の内容で複数回の問い合わせがあったものは、1件として集計した。